

みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ vol.18 兵庫地域会 地域まちづくり委員会

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

生活文化がつくる色

月に一度、会議でこうべまちづくり会館を訪れる。JR元町駅から、道すがら神戸元町商店街をぶらぶら、神戸風月堂、元町映画館を横目に、時に店先にマスクを置く店や輸入食材店に吸い込まれる。時間に余裕のある時は、まちづくり会館を少し通り過ぎた先、元町5丁目にある「みなせ筆本舗」へ、筆・墨・硯・紙などの文房四宝を探しに訪れる。

書を始めてから知ったことだが、兵庫県は全国屈指の書道王国と言われ、書道会、書道人口が多く、非常に書が盛んな地域である。

みなせ筆本舗は幅広い品ぞろえで兵庫の書道家、書に親しむ人、学童を下支えする老舗。隣接する貸し画廊は展示や書の勉強の場にもなっている。歴史は古く、1558年有馬で実用の筆造りを始め、その筆造りの技術力や工程は「有馬筆」として1982年に兵庫県重要無形文化財に認定され、元町商店街に店舗を構えてからは60年以上になる。

程近く、元町商店街から一本南に下ると、しっとり佇む走水神社がある。街中にあるこの神社は天照大神・応神天皇・菅原道真を主祭神とし、1100年以上の歴史があるという。天神様、学問の神として崇められる菅原



走水神社(1958再建)脇には存在感のある筆塚

人に寄り添う居場所

Place making という都市デザイン手法がある。1960年代にアメリカで提唱されたもので、地域のコミュニティと共に、パブリックスペースをPlace＝人に寄り添う居場所になるよう作っていく協同型のプロセス・デザインの考え方や手法をいう。それは単に賑わいをつくることを目的にせず、街のコミュニティの中心として交流できる場、交流しなくてもシェア出来る場、一人でも自分らしく居られる場でもある。

日本ではPlace making JAPANが情報を発信し、2014年国土交通省の政策で触れられてからは全国での実証実験が数多く展開されている。子どもから専門家まで誰でも楽しみながら参加できるプレイスゲームを取り入れ、段階(図)を踏みながら居場所を考え見つけ作っていく手法で、その中に次の2つがある。

1. その街中にあるポテンシャルを秘めた場所

道真は、書の三聖(菅原道真・空海・小野道風)の一人で、書の達人でもある。小さな神社だが、社殿脇には存在感の大きな筆塚があり、祈りと共に、役目を終えた筆たちの供養の場ともなっている。

走水神社が筆の老舗をこの場所に引き寄せたのだろうか?と勝手に想像が膨らむ。

神戸元町商店街周辺には、創業100年を超える老舗が20程あるという。それぞれの老舗には、時間を経て紡ぎ出されてきたそれぞれの物語がある。それは、店の個性であり、街の個性、一つの色でもある。

通りを歩いていると、辻々で見える六甲山、感じられる海の気配。時に山風、時に海風の湿り気と匂いは場所性を感じさせてくれる。それぞれの場所では、場の特徴を生かした魅力を発信する取り組みも行われている。私が拠点の一つを置く六甲山では、六甲山の自然を楽しみながら、各施設を舞台に展示される現代アートをめぐる「六甲ミーツ・アート芸術散歩」が2010年から毎年開催、13回目を迎え六甲山の特徴あるアートイベントに成長してきている。2017年からは時期を重ねて「六甲山名建築探訪ツアー」も開催され、自然とともにアートや建築に親しむものとなっている。ただ、六甲山に住む人口は少



神戸元町ミュージックウィーク2022 ストリート風景

10箇所を見つける

2. その10の場所から1つずつ、地域と共に、低コスト・低リスクで検証を行い、検証を繰り返す

Place makingは道路・公園・公共施設・学校などの公共空間を対象にしたものだが、これをみなと元町に適用してみよう。

公共性をみんなが利用する場、人に寄り添う場と広く捉えれば、公共空間や歴史的建築物だけでなく、街角の店舗の軒先、探索心をそそられる古ビルの一角、街のギャラリー、映画館、公開空地、空き地などが見えてくる。

通りなど小さなエリアで、10の箇所を見つけ、10の検証を繰り返す。みんなで行うまちづくりをロジカルで客観的な手法を取り入れて俯瞰してみると、面白い発見があるかもしれない。

居場所は、エリアだけでなく街の魅力ある要素や記憶に残る風景でも良いかもしれない。例えば、点在するお地蔵様のお祭りを、毎月24日にどこかで行い、年に一度すべてのお地蔵様で

ないので、参加者は観光客が主だろうか。

みなと元町はどうだろう。阪神淡路大震災の3年後、1998年に「神戸元町ミュージックウィーク」を、音楽好きの神戸元町商店街店主有志で始められている。2022年には3年ぶりに23回目が、丸太やギャラリー・こうべまちづくり会館・一帯のホールやストリートなど複数の場所で、神戸ジャズストリートと時期を重ね開催された。20年以上続けるということは大変なことだが、それだけ地域への思いが強く、魅力があるということだろう。

「街がステージ、みんなでコンサート」を合言葉にした、地元の市民による市民のための手作り音楽祭は、元町の文化的魅力を地域ぐるみで作り上げ発信する手法として、KOBE ART AWARD2014 地域賞を受賞されている。他にも様々な取り組みがあり、地域を愛し地域に携わるみんなの、場に根付いた生活文化の力がそこにはある。これまで連載された「みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ」を振り返ってみても、異国情緒を醸し出す南京町、多様で複雑な古ビルが魅力の乙仲通り、専門店と新しい店が共演する神戸元町商店街、みなと元町エリアの中でもそれぞれの場の個性があり、そこで働き暮らし楽しむ人々の生活文化がその色を作っている。

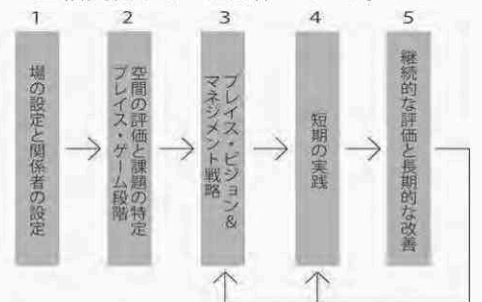


図:プレイスメイキングのプロセス

提灯を吊るし一緒に地蔵盆を行う。私が子どもの頃の地蔵盆を鮮明に思い出すように、その風景は新しい住人や子どもたちにとっても記憶に残る風景になり、心の居場所になる気がする。

職・住・遊芸空間であるみなと元町は、人々の生活文化がいきづく街。街は南北東西の面的広がりだけでなく、高さ方向に3次元に、時間軸を含むと4次元になる。

街はステージであり、美術館であり、それぞれの個性ある物語を内包する図書館でもある。

生活しながら感動する魅力。生活文化がいきづくみなと元町は、どんな含みある余白、人に寄り添う居場所を内包しているのだろうか。



矢代 恵 (やしろめぐみ)

MEG建築設計事務所主宰
一級建築士/インテリアコーディネーター
広島女学院大学/
大阪総合デザイン専門学校
非常勤講師